

# 進修館だより 交流マップ

進修館だよりを通じて交流させていただいている皆様をマップに掲載していく形でご紹介します！



**■ 笠原落川**  
 笠原小学校と新しい村の間を流れる笠原落川は、かつてはタナゴという川魚がたくさん獲れることで有名だった場所です。タナゴ釣り大会が行われることもあり、多くの参加者でにぎわったそうです。

- 町外の皆様**
- ・(株)彩和とらすとサービス(白岡市小久喜)
  - ・杉戸町障がい者支援センター(杉戸町清地)
  - ・日の出(幸手市中)
  - ・(株)あおば保険事務所(春日部市中央)
  - ・白田陽介税理士事務所(久喜市久喜東)
  - ・CAFE パロキア(久喜市菅沼町)
  - ・入間市文化創造アトリエ AMIGO!(入間市仏子)
  - ・象設計集団 東京事務所(東京都狛江市)
- 配布などご協力いただいている方々**
- ・ふれあいクラブ(宮代町宮代台)
  - ・～語りと和楽の芸人衆～かたりと(東京都北区)

**■ 進修館だよりで交流させていただいている自治会をご紹介します！(50音順)**

- |          |         |             |            |          |
|----------|---------|-------------|------------|----------|
| ・内野      | ・新道三区町会 | ・中須地区       | ・宮代1丁目第2町会 | ・和戸2丁目2区 |
| ・笠原2丁目町会 | ・新道第一町会 | ・中寺地区自治会    | ・宮代学園台自治会  | ・和戸3丁目   |
| ・川端一区自治会 | ・新道第2町会 | ・東桑原自治会第1地区 | ・宮代台自治会    | ・和戸4丁目1区 |
| ・川端二区自治会 | ・辰新田町内会 | ・東桑原自治会第2地区 | ・山崎        | ・和戸4丁目2区 |
| ・川端三区自治会 | ・中央第1町会 | ・姫川二区自治会    | ・柚の木二区自治会  | ・和戸5丁目地区 |
| ・逆井地区    | ・中央第2町会 | ・藤曽根地区      | ・和戸1丁目町内会  |          |
| ・新中町会    | ・道佛1区   | ・宮代1丁目1町会   | ・和戸2丁目1    |          |

## 進修館の修繕について、みんなで考えよう！

進修館は、今年で築42年になります。象設計集団の代表建築と言われていることもあり、貸館施設の利用者だけでなく、建物の美しさを愛する人や建築を学んでいる人、撮影する人等、多くの方が訪れて、様々に利用されています。

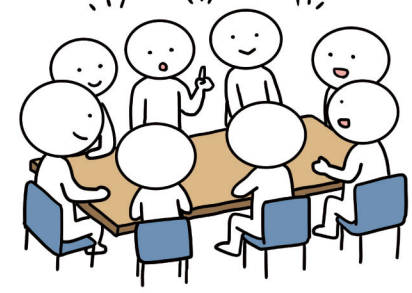


宮代町においては、平成24年に笠原小学校とともに施設長寿命化計画が策定されるなど、長く大切に使い続ける建物と位置付けられていますが、現状は建物に経年劣化が見受けられるものの十分な修繕が行われていないなど、今後の維持管理が課題となっています。



宮代町のシンボル建築である進修館を長く大切に使い続けるために、修繕をテーマにみなさんとともに話し合う場「オープンカレッジ」を開催します。

**■ 進修館オープンカレッジ「進修館の修繕について、みんなで考えよう」第1回**



日時：2022年9月29日(木) 19:00～21:00

場所：進修館2階ロビー

内容：進修館の現状について

参加費：無料

申込み：進修館1階受付

☎ 0480-33-3846 ✉ mail@shinsyukan.or.jp

※全6回の開催を予定しており、内3回(10/22・29、11/05)は、芝生広場にかかる木橋の修繕ワークショップを予定しています。

進修館だより 2022年9月号(第18号) 第1版：2022/08/28 発行  
 発行元：宮代町立 コミュニティセンター進修館  
 (指定管理者：特定非営利活動法人 MCAサポートセンター)  
 住所：〒345-0822 埼玉県南埼玉郡宮代町笠原1-1-1 TEL：0480-33-3846  
 URL：https://www.shinsyukan.or.jp E-mail：info@shinsyukan.or.jp

## 実験！「スキップ広場に賑わいをつくりだそう！」

進修館と宮代町役場の横、SL広場としても知られている「スキップ広場」。今年度そのスキップ広場で、「進修館ラボ」という実験企画を行っています。実験の内容は「スキップ広場を、いつも人が集まる賑やかな場所にしよう！」というものです。スキップ広場ではこれまで数々のイベントが開催されており、その際には多くの人々で賑わいますが、今回の企画の趣旨は「イベントでもなんでもない日常に、どのようにしたら人が集い、賑わいが生まれるのか？」というものになっています。

この実験は日本工業大学建築学部建築学科の木下芳郎教授にご協力頂き、2021年4月から打ち合わせを重ね、2022年7月、日本工業大学の学生とともに複数回にわたり実験を行いました。



実験では「何をどのように配置すれば、人々はそこに集まるか、そこに留まるか。」というのを探るべく、週一でパラソルやガーデンテーブル、椅子、人工芝などを様々な場所に配置、日を変えて違う場所に配置するなどして、人々の動きや滞留状況を見ていました。

そして、その結果ですが…残念ながら、今年の7月は異常なまでの猛暑で、賑わいどころか人が表に出ないという事態に陥り、その結果、実験の成果はほとんどありませんでした。とはいえ実験は、これで終わりではありません。少し涼しくなる10月から再度実験を行いますので、ご興味のある方は是非見に来てください！

## 進修館アーカイブ

進修館では、当館にまつわる様々なデータをデジタル化して保存しています。このコーナーでは、その一部を紹介します。

1985年6月号の広報みやしろに「お風呂」という記事が掲載されていました。記事の内容を見ると「暖かい季節の毎週月曜日を中心に、進修館のシャワー室（お風呂）を開放。要予約。」というような内容のことが書かれています。

実は…進修館にはお風呂があります。場所は大ホール横、和室・茶室入口の向かいあたりです。大きさはそれほど広いものではなく、大人だと洗い場も含めて5～6人くらいが入れる程度です。ですので、お風呂というよりシャワー室の方が適しているかもしれません。



さて、そのお風呂ですが、現在は倉庫になっています。お風呂の様相はそのままに、洗い場の様子もそのままに、物がバンバン積まれた倉庫になっています。衛生的な問題もあるでしょうから、今お風呂として使うのは難しいと思いますが、ちょっと残念。「進修館の風呂に入って、和室で一杯！」。当時が羨ましいですね。

## 皆様からの声をお届け！

進修館だよりを通じて交流させていただいている皆様の声をお届けするコーナーです。

水と緑のふれあいロードが通り、豊かな田園風景が広がる東条原地区。その中の東条原1区の区長を務める岡安幸治さんにお話を伺いました。

### 質問1 「岡安さんから見た進修館の印象は？」

- ・進修館ができたとき「すごいものができたなあ」と思った。
- ・宮代町のような田舎には似合わないような立派な建物だと思った。
- ・進修館で思い出があるのは、須賀ファイターズに関わっていた時。チームの子どもたちと一緒に、進修館で夏に合宿をした。進修館の風呂にもはいった。温泉のような感じだった。いまは役場庁舎になっているところでBBQをして、コーチや保護者との親睦を深めた。子どもたちは毛布を各自持参して和室やロビーでごろ寝した。合宿は4～5年続けたかなあ。え？今はお風呂として使ってないの？今は倉庫になっちゃってるんだ～。木の石けん箱やイスがあったのも覚えている。食堂でお母さん方が料理を作ってくれて…。楽しかったなあ。夏の楽しみだったよ。
- ・今年は進修館の芝生広場が雑草だらけだけど、どうしたの？あれはひどいよ。繁殖力が強い草を伸ばしすぎると、芝生がなくなってしまうよ。進修館の芝生広場は駅から来た人が最初に目にする場所だから、きれいにしておかないとみっともない。



岡安さんは、国鉄（現JR東日本）の大宮機関区で蒸気機関車の運転をしていたこともあるそうです。また若いころから野球に親しんでいたこともあり、地域の少年野球のコーチや監督を務めていました。



東条原地区に広がる田は、かつては「ホツケ田（堀上田）」だったそうです。ホツケ田は、沼地や窪地など水がたまりやすい地域の水田開発や排水不良をおこしている水田の水腐れ等の被害を軽減させるためにつくられたもので、現在は新しい村の周辺に当時を再現したものが残されています。

### 質問2 「今後の進修館に、どのようなことを期待しますか？」

- ・地元の東条原で、スポーツ愛好会という活動を通して交流を図っている。こういう地域の活動の延長で「今度は進修館を会場にしようよ」という流れになったらいい。地域のコミュニティがさらに強まると思う。
- ・自然教室のようなものを進修館でやって、子どもたちに自然の大切さを知ってもらいたいのではないかと、これからのことを考えると、子どもたちが利用するようにするのがいいと思う。スポーツのチームなどの団体が、目的意識をもって進修館を使うようにいい。

岡安さんのお話から、進修館のお風呂の話が伺えたことは驚きでした。開館当初は今まで以上に様々な利用のしかたがあって、まちのみなさんが親睦を深めていたんですね。

岡安さんはかつて、足尾銅山や南相馬での植樹活動に関わるなど、自然環境への取組みもされていたとのこと。そこでは、その土地に由来から生息している種類の木を複数種類混ぜて密に植える、宮脇方式という植樹方法を学び、実践しました。こうした経験や昨今の異常気象などから、自然環境への取組みや関心を次世代につないでいくことがいかに大切かを実感したそうです。これからの担う子どもたちに、自然豊かな宮代町を教材として環境に関心を持ってもらいたい、との思いを話してくださいました。宮代の屋敷林の植生を再現して植樹されている進修館で、岡安さんから森のあるまちづくりのお話を伺える日が来るかもしれないですね。